

漢語福清方言における動詞の部分重複について

陳 学雄

神戸市外国語大学(客員研究員)・auchen516@gmail.com

キーワード：閩東方言、福清方言、部分重複、声調交替、意味分析、語用論的効果

1. はじめに

漢語福清方言(以下福清方言とする)は中国福建省の東南沿岸地域に位置する福清市および平潭県の一部の地域で話されている言語である。方言区分では系統的に閩東方言の下位方言として位置づけられている。

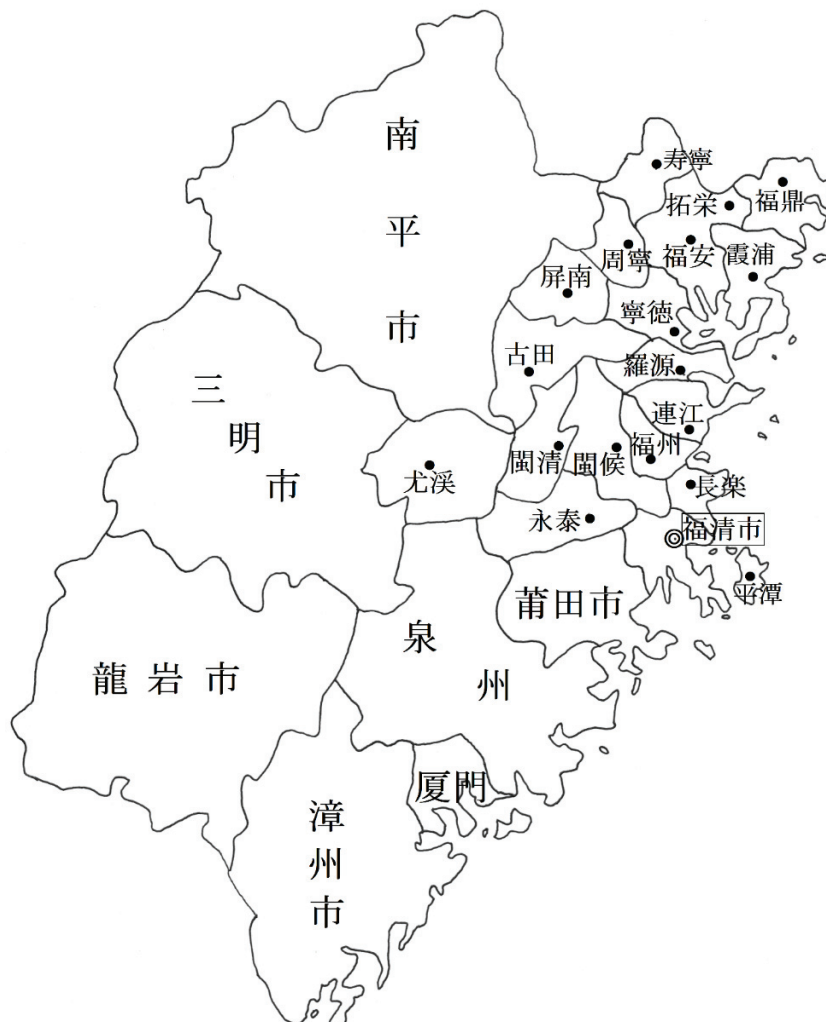


図1 福建省における福清市の位置¹

¹ 陳(2018)より引用。黒点は閩東方言区に属する地域を示す。

福清方言は地域によって、内部差異が存在する。冯爱珍(1993:3)は声調交替規則の違いによって、福清方言を「融城」、「高山」、「江陰」、「一都」の4つの方言グループに分類している。そのうち、「融城」グループは標準福清方言地域とされている。2019年の時点で、福清市の人口は、戸籍人口は139,1万人で、流動人口は33,3万人である²。

多くの漢語方言と同様、福清方言は形態変化がない。重複、複合と接辞の付加などが語形成の主な手段である。重複とは語基の全体または一部を繰り返す形態論的プロセスである。語基の全体をそのまま繰り返すものを完全重複(full reduplication)、これに対して、語基の一部だけを繰り返す操作も存在し、部分重複(partial reduplication)と呼ばれる(斎藤他 2015:155)。

福清方言では完全重複と部分重複と、両方の重複現象が観察される。(1)は完全重複の例である。

- | | | | |
|---------|----------------------------|---|---|
| (1) 名詞： | pue ⁵¹ 〈杯〉「コップ」 | → | pue ⁴⁴ ~pue ⁵¹ 〈杯杯〉 |
| | tsui ⁴³ 〈水〉「水」 | → | tsui ²¹ ~tsui ⁴³ 〈水水〉 |
| 動詞： | pha ²¹ 〈拍〉「殴る」 | → | pha ⁵¹ ~pha ²¹ 〈拍拍〉 |
| | sia ⁵¹ 〈食〉「食べる」 | → | sia ⁴⁴ ~sia ⁵¹ 〈食食〉 |
| 形容詞： | pa ⁵¹ 〈白〉「白い」 | → | pa ⁴⁴ ~pa ⁵¹ 〈白白〉 |
| | ho ⁴³ 〈好〉「いい」 | → | ho ²¹ ~ho ⁴³ 〈好好〉 |

(1)が示すように、語基の全体がそのまま繰り返され、完全重複が行われている。(1)のpue⁵¹〈杯〉「コップ」では、語基pue⁵¹がそのまま繰り返されて、重複形pue⁴⁴~pue⁵¹〈杯杯〉という語形を形成している。重複部pue⁴⁴~の声調が44となっているのは、声調交替が起こっているためである。完全重複現象には名詞、動詞、形容詞の三つの語類が関与する。

(2)は部分重複の語形成の例である。

- | | | | |
|--------|------------------------------|---|--|
| (2) a. | pha ²¹ 〈拍〉「殴る」 | → | ph-i ⁵¹ ~pha ²¹ |
| b. | mε ⁴² 〈卖〉「売る」 | → | m-i ⁴⁴ ~mε ⁴² |
| c. | thia ²¹ 〈拆〉「解体する」 | → | th-i ⁵¹ ~thia ²¹ |
| d. | khui ⁵¹ 〈开〉「運転する」 | → | kh-i ⁴⁴ ~khui ⁵¹ |
| e. | sia ⁵¹ 〈食〉「食べる」 | → | s-i ⁴⁴ ~sia ⁵¹ |

(2)は(1)と異なり、語基の全体ではなく、語基の一部が繰り返されている。福清方言における部分重複は、(2)のとおり、語基の頭子音が繰り返され、母音が繰り返されない。(2a)のpha²¹〈拍〉「殴る」は頭子音phを繰り返されて、母音aが繰り返されていない。(2b)のmε⁴²〈卖〉「売る」は頭子音mが繰り返されているが、母音εが繰り返されていない。(2c)~(2e)においても同様であり、語基の母音は部分重複に関与しない。

² 福清市の公式サイト(<http://fq.fuzhou.gov.cn>)による(最終確認 2021年2月10日)。

もう一つ完全重複との違いは、部分重複は動詞の語形成のみに観察されるということである。名詞と形容詞は部分重複現象に関与しない。

本論文で用いる用語の使い方についてここで説明しておく。本論文では、語基、重複部という用語を次の意味で用いる。

語基という用語は、重複という操作の元となる形を指すのに用いる。そして、重複部という用語は、繰り返されて形成される形を指すのに用いる。例(1)の完全重複に関していえば、重複という操作の元となる形は pue^{51} 〈杯〉の部分であるので、 pue^{51} が語基である。そして、繰り返されて形成される形は $pue^{44}pue^{51}$ の中の pue^{44} の部分であるので、 pue^{44} の部分が重複部である³。

例(2)の部分重複に関していえば、重複という操作の元となる形は pha^{21} 〈拍〉であるので、 pha^{21} が語基である。そして、繰り返されて形成される形は phi^{51} であるが、繰り返される部分は ph の部分だけである。「重複部」という用語の一般的な使い方からいえば ph の部分のみが重複部だが、本論文では繰り返された頭子音 ph と、そこに付加された母音 i を含む全体を重複部と呼ぶ。具体的には、 phi^{51} が重複部である。

実は、福清方言の重複に関わる声調交替を説明するには、語基、重複部という用語に加えて、基体部という用語も導入する必要がある。これは部分重複の全体に関わる問題であり、詳細は 3.2.2 節でおこなう。

以上では福清方言において、完全重複のみならず、部分重複現象も存在することを述べた。本稿の目的は福清方言における部分重複現象について、形態音韻論的分析をおこなう。部分重複の使用場面を提示し、その生起条件を明らかにすることである。

本稿は自然発話データと作例と両方用いる。自然発話データは 2014 年 12 月に筆者が福清市海口鎮で採集した第一次資料⁴である。海口鎮は冯爱珍(1993)の分類では、「融城」グループに属する地域である。より自然なデータを採集するために、インタビュー形式ではなく、福清方言話者が会話する際に、許可を得て録音機を置いて録音させていただいた。作例に関して、インフォーマント⁵に文法性チェックをしていただいた。また、部分重複を用いた例文についても使用場面や意味について確認していただいた。なお、筆者も福清方言の母語話者であり、十分な内省能力を持っている。

本稿は次のような構成である。

2 節では部分重複についての研究の現状について紹介する。3 節では福清方言における部分重複について形態音韻論的分析をおこなう。具体的には重複部の分節音と重複部の声調の実現に分けて記述する。4 節では部分重複の使用場面をいくつかに分け、部分重複を用いた

³ 重複部と語基の間で声調交替が起こっている。具体的には、 $pue^{51} \sim pue^{51} > pue^{44} \sim pue^{51}$ のように交替している。文の中で連続する単語の間、または、複合語の構成要素の間に声調交替が起きることがあり、またそれに伴い、母音が交替することもある。ここに示したのは交替後の語形である。

⁴ 調査協力者は筆者の家族や親戚、それから近所の方々である。どなたも成人するまで福清市以外の地域での長い滞在歴はない

⁵ インフォーマントは 30 代、女性、福清市海口鎮出身である。学歴は中学卒業、成人するまでには福清市以外の地域での長い滞在歴はない。現在は広東省深圳市在住。調査は電話で行った。

言語データを提示する。つづいて部分重複の生起条件を考察する。さらに部分重複の使用による語用論的効果について述べる。5 節では本稿でおこなったことを要約し、今後の課題について述べる。

2. 部分重複についての研究の現状

福清方言に関する研究は全体的に数が少ない。現在までの福清方言研究は、音韻研究に重点を置いている。これらの研究は、音韻変化の解明のための比較言語学的研究に少なからず寄与してきた。しかし、文法に関する研究は極めて少ない。冯爱珍(1993)と林寒生(2002)は、福清方言の文法についても、いくつかの項目を取り上げている。しかし、部分重複には特に言及がない。

福清方言のみならず、漢語諸方言全体においても、部分重複に関する記述がほとんど見られない⁶。福清方言以外では、部分重複に関する記述が見られるのは、3 点だけである。福州方言の部分重複を取り上げた(ア)李如龙(1984)と(イ)陈泽平(1998, 2015)、古田方言の部分重複を取り上げた(ウ)李滨(2014)である。

以下に、福州方言と古田方言における部分重複現象について、重複部の形態、声調および部分重複の意味についての記述を簡単に紹介しておく。

(ア)李如龙(1984)

李如龙(1984)では、動詞の部分重複現象を“特式重叠「特別重複(拙訳、以下同様)”と呼んでいる。単音節動詞 A に対して、特別重複させて aA を形成する。a は重複部である。a と A との間には以下のような関係を有する。

- ・ a の声母は A と同じである。a の韻母は A の韻尾によって決まる。A の韻尾が母音もしくは入声の場合は、a の韻母が i である。A の韻尾が鼻音の場合は、a の韻母が iq である(p17)。
- ・ a の声調は A と同じである。a と A との間で声調交替が起こる。通常的二音節の声調交替規則にしたがう(p17)。
- ・“特式重叠「特別重複)”は、動作が適当である、明確な目的や目標を持たない意味を表わす。動作が一回で完了し、時間が短いことを表わす(p18)。

李如龙(1984)では、“特式重叠「特別重複)”できる動詞は一音節の動詞のみであるとしている。二音節動詞については言及していない。

⁶ 付欣晴(2016)の統計によると、漢語諸方言の重複現象についての論考は 1,700 以上にも上り、膨大な研究の数になっている。付欣晴(2016)は官話のみならず、漢語諸方言における名詞、動詞、形容詞などの重複現象を取り上げている。動詞重複の部分では、官話、晋方言、吳方言、閩方言、粵方言、韓方言、客家方言、湘方言、徽方言の動詞重複をまとめている。しかし、すべてが完全重複に関するものであり、部分重複に関する記述は見当たらなかった。

(イ)陈泽平(1998, 2015)

陈泽平(1998)では部分重複現象を“簡捷貌衍音「簡潔貌音声派生」”と呼んでいる。一音節動詞と二音節動詞と、両方が“簡捷貌衍音「簡潔貌音声派生」”することができる。派生した音節の形態、声調および派生の意味について以下のように述べている。

- ・一音節動詞は、“簡捷貌衍音「簡潔貌音声派生」”して二音節になる。第一音節は一音節動詞の声母に韻母 i をつけて構成した音節で、第二音節は元の動詞の音節である。第一音節と第二音節との間で声調交替が起こる。同じ声調を持つ音節が結合する際の声調交替規則にしたがう(陈泽平 1998 : 116)。
- ・二音節動詞は、動詞原形の第一音節を“簡捷貌衍音「簡潔貌音声派生」”して、全体で三音節になる。重複形の第一音節は韻母が i で、声母は動詞原形の第一音節の声母と同じである(陈泽平 1998 : 117)。声調は低降調(=21 調)である(陈泽平 2015 : 299)
- ・“簡捷貌「簡潔貌」”は、動作・行為に“干脆「思い切って／いっそのこと”、“痛快「痛快である」というニュアンスをもたらす。共通語では、同じ意味を表すのに、一般的に“干脆「思い切って”“索性「いっそのこと”などの副詞を用いる必要がある(陈泽平 1998 : 118)。

李如龙(1984)では二音節動詞について特に言及していないが、陈泽平(1998, 2015)では二音節動詞についても取り上げている。重複部の母音に関しては、李如龙(1984)では動詞の音節の韻母によって i もしくは ij になるとしているが、陈泽平(1998, 2015)では音節タイプに関係なく、重複部の母音が一律 i であるとしている。

(ウ)李滨(2014)

李滨(2014)では、古田方言における部分重複の形式を“CD 衍音式「CD 音声派生」”と呼んでいる。C は派生した音節のこと、D は動詞の音節である。C の語形成、声調および CD の意味について以下のように述べている。

- ・一音節動詞の場合は、派生した C の声母は D と同じで、韻母が i である。D の韻母が鼻音終わりの場合、C の韻母は ij でもよい。C の声調は D の声調と同じで、C と D の間で声調交替が起こる(p153)。
- ・二音節動詞の場合では、二音節のうち第一音節の声母と声調をコピーして、C を派生させる。C の韻母は i で、声調は第一音節の声調との間で声調交替が起こる(p153)。
- ・“CD 衍音式「CD 音声派生」”によって、動作・行為が「気苦労がなく、勝手気まま」におこなわれる、というニュアンスが付け加わる。共通語では“随便「適当に」”を用いて表わす。また、一定の文脈では、動作・行為に“干脆「思い切って／いっそのこと”、“痛快「痛快である」というニュアンスをもたらす。共通語では、同じ意味を

表すのに、一般的に“干脆「思い切って」”“索性「いっそのこと」”などの副詞を用いる必要がある(pp153-154)。

上述したように、福清方言以外では、部分重複に関する記述が見られるのは、福州方言と古田方言の研究、あわせて三点のみである。大変興味深い現象にもかかわらず、その研究の数があまりにも少ない。

管見の限り、李如龙(1984)が部分重複現象に最も早く注目した研究である。李如龙(1984)によれば、部分重複現象は閩方言、特に閩東方言に多く見られると指摘している。閩南方言である泉州方言にも存在するが、オノマトペからできた単音節動詞に限られると述べている(p19)。

福州方言と古田方言はいずれも閩東方言に属する下位方言である。現在まで福州方言と古田方言しか報告されていないことと、李如龙(1984)の指摘と関連付けて考えれば、部分重複は閩東方言に特徴的な現象である可能性が高い。

本論文では同じ閩東方言に属する福清方言を取り上げ、福清方言における部分重複の言語データを提示し、重複部の形成および部分重複の生起条件を考察して記述する。本研究は、今後閩東方言の重複現象の全体像を探究するうえでも重要な基礎的資料に違いない。

次節から福清方言における部分重複現象について記述する。福州方言と古田方言における部分重複現象との相違点についても述べる。なお、筆者は陳学雄(2018)においても部分重複現象を取り上げているが、簡単な記述に留めている。本稿は陳学雄(2018)の記述を大幅に加筆・修正したものである。

3. 形態音韻論的分析

3 節では、部分重複の形態音韻論的分析を行う。具体的には部分重複の分節音と部分重複の声調の実現に分けて、この順序で記述する。

3.1 重複部の分節音

福清方言の音節構造を端的に表せば、(3)の通りである。

$$(3) \quad \sigma = C_1(V_1)V_2(V_3)(C_2)/T$$

C は子音、V は母音、T は全体にかぶさる声調を表す。C₁ の位置に現れた子音を頭子音(initial)、C₂ に現れた子音を末子音(final)と呼ぶ。V₂ は主母音である。V₁ は中国語学では介音と呼ぶものである。福清方言では、必ずしもすべての要素が現れるわけではない。したがって、頭子音のない音節も存在する⁷。

⁷ 福清方言の音素目録は、[子音]/p, ph, t, th, k, kh, ʔ; ts, tsh; s, h; m, ŋ; l/、[母音]/i, e, ε, a, y, ø, œ, ɔ, o, u/ である。声調素は/44, 51, 43, 42, 21/である。

部分重複は、語基に一定の操作をほどこして重複部を作り、その重複部を語基の前に付加しておこなう。その操作は具体的には次の(4)のようなものである。

$$(4) \quad C_1(V_1)V_2(V_3)(C_2) \rightarrow C_1-i \sim C_1(V_1)V_2(V_3)(C_2)$$

(4)に示されたように、語基である音節 $C_1(V_1)V_2(V_3)(C_2)$ に対して、まず頭子音 C_1 をコピーする。それから、 C_1 に母音 i を付けて、重複部 $C_1i \sim$ を構成する。構成された重複部 $C_1i \sim$ は動詞の前に配置される。重複部の形成は以下の(5)のとおりである。

- (5) a. pha^{21} 〈拍〉「殴る」 $\rightarrow ph-i^{51} \sim pha^{21}$
 b. $m\epsilon^{43}$ 〈买〉「買う」 $\rightarrow m-i^{21} \sim m\epsilon^{43}$
 c. tau^{44} 〈□⁸〉「言いつける」 $\rightarrow t-i^{44} \sim tau^{44}$
 d. $tiŋ^{44}$ 〈停〉「止める」 $\rightarrow t-i^{44} \sim tiŋ^{44}$
 e. $puaŋ^{51}$ 〈搬〉「運ぶ」 $\rightarrow p-i^{44} \sim puaŋ^{51}$
 f. $kha^{?21}$ 〈□〉「捨う」 $\rightarrow kh-i^{51} \sim kha^{?21}$
 g. $pe^{?44}$ 〈拔〉「抜く」 $\rightarrow p-i^{44} \sim pe^{?44}$

(5)が示すように、部分重複は、まず語基である音節の頭子音をコピーする。例えば、(5a)の pha^{21} 〈拍〉「殴る」に対して、頭子音 ph を、(5b)の $m\epsilon^{43}$ 〈买〉「買う」に対して、頭子音 m を、(5c)の tau^{44} 〈□〉「言いつける」に対して、頭子音 t をコピーする。次に、コピーしたそれぞれの頭子音に母音 i を付加して、重複部 $phi \sim$ 、 $mi \sim$ 、 $ti \sim$ を構成して、動詞の前に配置する。

重複部の母音は、語基が開音節であれ、閉音節であれ、必ず i である。(5a)～(5c)の語基が開音節である。それぞれコピーした頭子音に母音 i を付加している。(5d)と(5e)では、語基が η 終わりである。(5f)と(5g)では、語基が $?$ 終わりである。しかし、それぞれコピーした頭子音に付加する母音はやはり i である($iŋ$ にはならない)。この点は陳澤平(1998, 2015)が記述した福州方言と同様である。ただし、李如龍(1984)が記述した福州方言、李濱(2014)が記述した古田方言とは異なる。

語基は頭子音がゼロである音節の場合、例えば、(6)のような場合は、重複部も頭子音がゼロで、母音 i だけ付加される。閉音節である(6b)と(6c)においても同様である。

- (6) a. ϵ^{51} 〈□〉「(前方へ)押す」 $\rightarrow i^{44} \sim \epsilon^{51}$
 b. $eŋ^{51}$ 〈攪〉「置く」 $\rightarrow i^{44} \sim eŋ^{51}$
 c. $\epsilon^{?21}$ 〈压〉「抑える」 $\rightarrow i^{51} \sim \epsilon^{?21}$

⁸ 漢字が分からないものは「□」で代用する。また、重複部は、「□」で表して、その重複が部分重複であることを明示した。重複部のグロスに語基と同じ漢字を用いた場合、それが部分重複なのか、完全重複なのか、表記からは判別できなくなってしまうためである。

語基が二音節動詞の場合では、(7)のように部分重複が行われる。

- (7) a. $toi^{44}tsiu^{43}$ 〈□手〉「手伝う」→ $t-i^{21}\sim toi^{44}tsiu^{43}$
 b. $kai^{44}sieu^{42}$ 〈介绍〉「紹介する」→ $k-i^{21}\sim kai^{44}sieu^{42}$
 c. $kha^{35}la^{21}$ 〈□□〉「修理する」→ $kh-i^{44}\sim kha^{35}la^{21}$
 d. $tshy^{44}li^{43}$ 〈处理〉「処理する」→ $tsh-i^{21}\sim tshy^{44}li^{43}$
 e. $hiu^{35}se^{21}$ 〈休息〉「休憩する」→ $h-i^{44}\sim hiu^{35}se^{21}$
 f. $tuon^{35}lion^{42}$ 〈转让〉「譲渡する」→ $t-i^{21}\sim tuon^{35}lion^{42}$
 g. $huŋ^{35}lo^{21}$ 〈□□〉「申しつける」→ $h-i^{44}\sim huŋ^{35}lo^{21}$
 h. $huan^{44}ŋi^{44}$ 〈翻译〉「訳す」→ $h-i^{44}\sim huan^{44}ŋi^{44}$
 i. $aŋ^{44}pe^{44}$ 〈安排〉「手配する」→ $i^{44}\sim aŋ^{44}pe^{44}$

語基が二音節動詞の場合は、第一音節のみが部分重複に関与し、第二音節は部分重複に関与しない。例えば、(7a)の $toi^{44}tsiu^{43}$ 〈□手〉「手伝う」では、第一音節 toi^{44} 〈□〉の頭子音がコピーされている。第二音節である $tshiu^{43}$ 〈手〉は部分重複に関与しない。(7b)~(7i)においても同様である。

語基が二音節動詞の場合においても、重複部の母音は、語基が一音節動詞の場合と同様、必ず i である。また、第一音節の頭子音がゼロの場合、重複部も頭子音がゼロで、母音 i のみ付加される。例えば、(7i)の $aŋ^{44}pe^{44}$ 〈安排〉「手配する」に対して、重複部は $i^{44}\sim$ となっている。

重複部のこの頭子音が正確には何に由来するのかについては、3.2.2 節で明らかにする。

3.2 重複部の声調の実現

福清方言においては5つの声調素が存在する。それぞれ、51、44、43、42、21 である。語基が一音節動詞と二音節動詞とでは、重複部の声調の実現が異なる。以下、重複部の声調の実現を2つの場合に分けて考察する。3.2.1 節では語基が一音節動詞の場合を、3.2.2 節では語基が二音節動詞の場合を、それぞれ考察する。

3.2.1. 語基が一音節動詞

語基が一音節動詞の場合においては、重複部の声調は2つのステップを経て実現される。

ステップ1: 重複部を形成する(その際に語基の声調をコピーする)

ステップ2: 重複部と語基の間で声調交替が起こる

動詞 ka^{51} 〈加〉「加える」を例に示せば、語基 ka^{51} に対して、重複部 $ki\sim$ の声調は、具体的には図2のような流れで実現する。

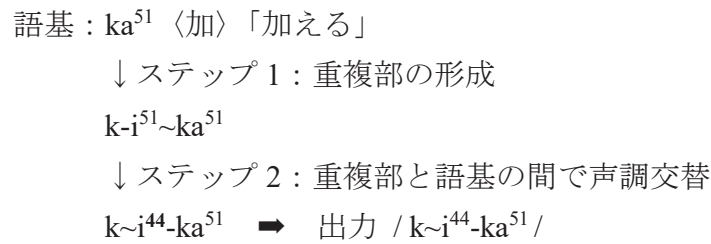


図 2 部分重複の流れ：一音節動詞の場合

図 2 が示すように、語基 ka⁵¹ 〈加〉「加える」の部分重複は、ステップ 1 では、語基 ka⁵¹ の声調 51 がコピーされ、重複部 ki⁵¹~が形成される。つづいてステップ 2 では、重複部 ki⁵¹~と語基 ka⁵¹ の間で声調交替が生じ、重複形 k-i⁴⁴~ka⁵¹ が形成される。

一音節動詞が部分重複される場合、重複部の声調がどのように実現されるかを、以下に具体例を挙げる。ここでもやはりステップ 1 とステップ 2 に分けて提示する。具体例は語基の声調が 51、44、43、42、21 の順に、2 例ずつ提示しておく。

	ステップ 1	ステップ 2
(8) a. kuɔŋ ⁵¹ 〈关〉「閉める」	→ ki ⁵¹ +kuɔŋ ⁵¹	→ ki ⁴⁴ ~kuɔŋ ⁵¹
b. sia ⁵¹ 〈食〉「食べる」	→ si ⁵¹ +sia ⁵¹	→ si ⁴⁴ ~sia ⁵¹
c. pu ⁴⁴ 〈口〉「炙る」	→ pi ⁴⁴ +pu ⁴⁴	→ pi ⁴⁴ ~pu ⁴⁴
d. pue ⁴⁴ 〈賠〉「弁償する」	→ pi ⁴⁴ +pue ⁴⁴	→ pi ⁴⁴ ~pue ⁴⁴
e. tu ⁴³ 〈賭〉「賭ける」	→ ti ⁴³ +tu ⁴³	→ ti ²¹ ~tu ⁴³
f. me ⁴³ 〈买〉「買う」	→ mi ⁴³ +me ⁴³	→ mi ²¹ ~me ⁴³
g. me ⁴² 〈卖〉「売る」	→ mi ⁴² +me ⁴²	→ mi ⁴⁴ ~me ⁴²
h. siɔŋ ⁴² 〈上〉「上がる」	→ si ⁴² +siɔŋ ⁴²	→ si ⁴⁴ ~siɔŋ ⁴²
i. so ²¹ 〈口〉「吸う」	→ si ²¹ +so ²¹	→ si ⁵¹ ~so ²¹
j. tso ²¹ 〈做〉「する」	→ tsi ²¹ +tso ²¹	→ tsi ⁵¹ ~tso ²¹

重複部の声調は、全部で三種類あり、51、44、21 である。福清方言では、音節が結合する際に、しばしば声調交替が起こる。そして、同じ声調を持つ音節どうしが結合する際の規則がある。部分重複における声調交替はその規則にしたがっている。この重複部の声調の実現は、福州方言と古田方言におけるそれと同じである。

3.2.2. 語基が二音節動詞

つづいて語基が二音節の場合についてみる⁹。語基が二音節動詞の場合においては、重複部

⁹ 二音節の動詞は数が少ない。そのため、声調の組み合わせパターンは全部提示することができない。また、第一音節の声調が 44、43、42 の動詞も数が少ない。

の声調の実現はやや複雑である。まず、二音節動詞の部分重複の例(7)をもう一度みてみよう。

- (7) a. $toi^{44}tsiu^{43}$ 〈□手〉「手伝う」→ $t-i^{21}\sim toi^{44}tsiu^{43}$
 b. $kai^{44}sieu^{42}$ 〈介绍〉「紹介する」→ $k-i^{21}\sim kai^{44}sieu^{42}$
 c. $kha^{35}la^{21}$ 〈□□〉「修理する」→ $kh-i^{44}\sim kha^{35}la^{21}$
 d. $tshy^{44}li^{43}$ 〈处理〉「処理する」→ $tsh-i^{21}\sim tshy^{44}li^{43}$
 e. $hiu^{35}se^{21}$ 〈休息〉「休憩する」→ $h-i^{44}\sim hiu^{35}se^{21}$
 f. $tuoj^{35}lioj^{42}$ 〈转让〉「譲渡する」→ $t-i^{21}\sim tuoj^{35}lioj^{42}$
 g. $huj^{35}lo^{21}$ 〈□□〉「申しつける」→ $h-i^{44}\sim huj^{35}lo^{21}$
 h. $huan^{44}ji^{44}$ 〈翻译〉「訳す」→ $h-i^{44}\sim huan^{44}ji^{44}$
 i. $anj^{44}pe^{44}$ 〈安排〉「手配する」→ $i^{44}\sim anj^{44}pe^{44}$

(7h)と(7i)では、語基の声調が44で、重複部の声調も44である。(7h)と(7i)だけを見れば、重複部の声調は語基の声調をコピーしたものと思われるかもしれない。しかし、(7a)~(7g)を見れば分かるように、重複部の声調は、語基の声調をそのままコピーしたものではない。例えば、(7a)の重複部 ti^{21} ~の声調は21であり、語基 $toi^{44}tsiu^{43}$ 〈□手〉「手伝う」の構成要素 toi^{44} と $tsiu^{43}$ の声調、44もしくは43から決まるわけではない。

「語基」と「重複部」の用語説明のところで触れたように、福清方言の重複に関わる声調交替を説明するには、「基体部」という用語を導入する必要がある。ここでその作業をおこないたい。「基体部」という用語を導入する前に、二音節動詞の複合と部分重複のプロセスを示す。二音節動詞 $hiu^{35}se^{21}$ 〈休息〉「休憩する」を例に示せば、以下の図3のとおりである。

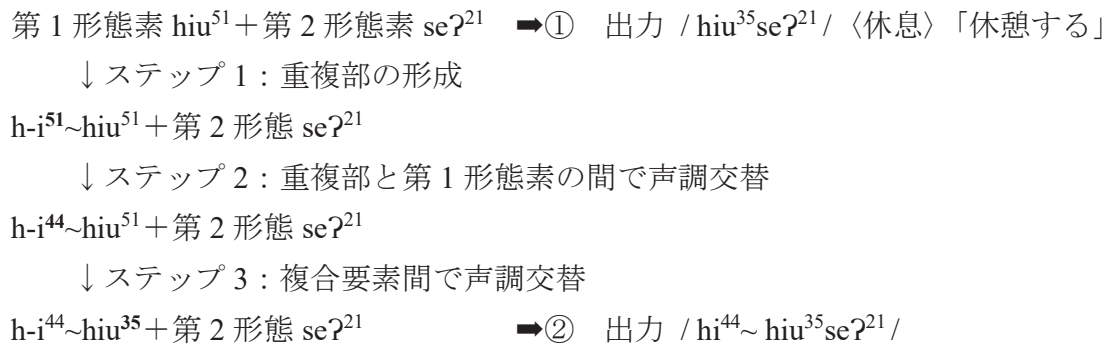


図3 部分重複の流れ：二音節動詞の場合

二音節動詞 $hiu^{35}se^{21}$ 〈休息〉「休憩する」は、第1形態素 hiu^{51} と第2形態素 se^{21} が組み合わさり、複合動詞が形成される。左から右へ向かう ➡①は、この複合と、声調交替により実現形が出力されるプロセスを表わしている。複合する過程で、第1形態素 hiu^{51} が第2形態素 se^{21} の影響を受ける。その結果、第1形態素 hiu^{51} の声調が51から35に交替し、複合動詞 $hiu^{35}se^{21}$ 〈休息〉「休憩する」が出力される。

一方、二音節動詞 $hiu^{35}se^{21}$ 〈休息〉「休憩する」の部分重複は、上から下へ、ステップ1からステップ2、ステップ3を経ておこなわれ、最後に➡②で示すように実現形として出力される。ステップ1では、第1形態素 hiu^{51} から頭子音と声調をコピーし、母音 *i* を付加して、重複部 hi^{51} が形成される。つづいて、ステップ2では、重複部 hi^{51} と第1形態素 hiu^{51} の間で声調交替が生じ、重複部が hi^{44} として実現する。最後にステップ3では、第1形態素 hiu^{51} と第2形態素 se^{21} の間で声調交替が生じ、重複形 $hi^{44}\sim hiu^{35}se^{21}$ が出力される。

福清方言では、音節結合時に必ず声調交替が起こる。二音節動詞に重複が生じる場合、その重複部の声調は語基の二音節をベースに作られるのではない。そうではなく、二音節語基の第1形態素、つまり複合し声調交替が起きる前の形の声調がベースとなり、重複部の声調が決まるのである。

したがって、本稿では、複合動詞が形成される前の第1形態素を基体部と呼ぶ。図3でいえば、第1形態素 hiu^{51} が基体部である。

以上のように、重複部の声調の実現は二音節動詞が結合する前の第一音節の声調によって実現する。つまり、重複部にとっての基体部は、複合する前の第1形態素である(語基の第一音節ではない)。二音節動詞の重複形はまず基体部から重複部を形成する。つづいて基体部(=第1形態素)が第2形態素と結合し、二音節動詞を形成する。そのような順序である。

複合が起き、そのあとで重複が起きるのではなく、まず重複が起き、そのあとで複合が行われるのである。意味的なまとまりは語基の第一音節と第二音節の結合だが、声調交替の形態音韻論に関していえば、重複部と、それに対する第1形態素、つまり基体部がまとまりをなしている。重複部の頭子音は正確には、基体部である第1形態素に由来する。

以下では、語基が二音節動詞の場合における重複部の声調の実現について詳しく見ていく。語基が二音節動詞の場合では、基体部の声調の調値によって、部分重複の声調は、二つの実現パターンが存在する。具体的には、基体部の声調の調値が 51、44、43、42 の場合(パターンIとする)と 21 の場合(パターンIIとする)である。

パターンIにおいては、重複部の声調は2つのステップを経て実現される。

ステップ1: 基体部の声調をコピーする

ステップ2: コピーした声調と基体部の声調の間で声調交替が起こる

以下の(9)では、基体部の声調の調値が 51、44、43、42 である二音節動詞を用いて、パターンIのステップ1とステップ2を提示する¹⁰。

¹⁰ 二音節動詞の漢字表記および日本語の意味は、(9)の表に収まらなかったため、ここに示す。それぞれ $tsoŋ^{44}siu^{51}$ 〈装修〉「内装する」、 $pe^{44}tuei^{42}$ 〈排队〉「列を作る」、 $tuŋ^{21}uaŋ^{51}$ 〈转弯〉「曲がる」、 $tiu^{44}tsa^{51}$ 〈调查〉「調査する」である。

	語基		基体部+第2形態素		ステップ1		ステップ2
(9) a.	tsɔŋ ⁴⁴ siu ⁵¹	←	tsɔŋ ⁵¹ +siu ⁵¹	→	tsi ⁵¹ +tsɔŋ ⁵¹	→	tsi ⁴⁴ +tsɔŋ ⁵¹
b.	pɛ ⁴⁴ tuei ⁴²	←	pɛ ⁴⁴ +tuei ⁴²	→	pi ⁴⁴ +pɛ ⁴⁴	→	pi ⁴⁴ +pɛ ⁴⁴
c.	tuɔŋ ²¹ uaj ⁵¹	←	tuɔŋ ⁴³ +uaj ⁵¹	→	ti ⁴³ +tuɔŋ ⁴³	→	ti ²¹ +tuɔŋ ⁴³
d.	tiu ⁴⁴ tsa ⁵¹	←	tieu ⁴² +tsa ⁵¹	→	ti ⁴² +tieu ⁴²	→	ti ⁴⁴ +tieu ⁴²

パターン I では、重複部の声調は(9)が示すようなステップ1とステップ2を経て、実現される。ステップ1でまず基体部の声調がコピーされる。そして、ステップ2でコピーされた声調と基体部の声調の間で声調交替が起こる。(9a)の例でいえば、ステップ1で、基体部 tsɔŋ⁵¹ から声調 51 がコピーされる。そして、ステップ2で、重複部 tsi⁵¹~の声調 51 と基体部の声調 51 の間で声調交替が生じ、重複部が tsi⁴⁴~として実現する。

また、(9c)の例でいえば、ステップ1で、基体部 tuɔŋ⁴³ から声調 43 がコピーされる。そして、ステップ2で、重複部 ti⁴³~の声調 51 と基体部の声調 43 の間で声調交替が生じ、重複部が ti²¹~として実現する。

パターン I では、重複部の声調はステップ1とステップ2を経て、44 あるいは 21 として実現する。基体部の声調が 51、44、42 の場合は、重複部の声調は 44 として実現する。基体部の声調が 43 の場合は、重複部の声調は 21 として実現する。

以上のようにして作られた重複部が基体部の前に付加され、さらにその基体部と第2形態素の間で声調交替が生じる。このようにして重複形が形成される。以下の(10)には、(9)のステップ2から重複形が形成されるプロセスを示す。

	ステップ2		第2形態素		重複形
(10) a.	tsi ⁴⁴ +tsɔŋ ⁵¹	+	siu ⁵¹	→	tsi ⁴⁴ ~tsɔŋ ⁴⁴ siu ⁵¹
b.	pi ⁴⁴ +pɛ ⁴⁴	+	tuei ⁴²	→	pi ⁴⁴ ~pɛ ⁴⁴ tuei ⁴²
c.	ti ²¹ +tuɔŋ ⁴³	+	uaj ⁵¹	→	ti ²¹ ~tuɔŋ ²¹ uaj ⁵¹
d.	ti ⁴⁴ +tieu ⁴²	+	tsa ⁵¹	→	ti ⁴⁴ ~tiu ⁴⁴ tsa ⁵¹

次にパターンIIについてみる。パターンIIは、第1形態素の声調が21の二音節動詞の場合である。このパターンIIにおいても、重複部の声調は44または21として実現する。ただし、パターンIIにおける重複部の声調の実現には、語基の第2形態素の声調も関与する。第2形態素の声調の違いによって、二種類の実現方法が見られる。

まず、第2形態素の声調が51または44の場合、重複部の声調は44として実現する。(11)のとおりである¹¹。

¹¹ (11)に示した動詞は、それぞれ次の意味である。kuɔ⁴⁴tsɔŋ⁵¹〈过装〉「組み立てなおす」、kuɔ⁴⁴iu⁴⁴〈过油〉「フライしなおす」。

語基		第 1 形態素 + 第 2 形態素		重複形
(11) a. ku ⁴⁴ tsɔŋ ⁵¹ 〈过装〉	←	ku ²¹ + tsɔŋ ⁵¹	→	k-i ⁴⁴ ~ku ⁴⁴ tsɔŋ ⁵¹
b. ku ⁴⁴ iu ⁴⁴ 〈过油〉	←	ku ²¹ + iu ⁴⁴	→	k-i ⁴⁴ ~ku ⁴⁴ iu ⁴⁴

(11)が示すように、第 2 形態素の声調が 51 または 44 の場合は、重複部の声調は 44 として実現する。このように実現するのはなぜだろうか。その理由としては、次の二つの可能性 A、B が考えられる。

可能性 A：重複部 ki~は基体部 ku²¹ 〈过〉の声調 21 をコピーし、重複部 ki²¹~として形成される。つづいて、重複部 ki²¹~と語基の第一音節 ku⁴⁴ の間で声調交替が生じる。つまり、21+44→44+44 の交替プロセスを経て重複部は ki⁴⁴~として実現した。

可能性 B：重複部 ki~は語基の第一音節 ku⁴⁴ 〈过〉の声調をそのままコピーして実現した。

次に第 2 形態素の声調が 43、42 と 21 の場合は、重複部の声調は(12)が示すように、21 として実現する¹²。

語基		第 1 形態素 + 第 2 形態素		重複形
(12) a. toi ⁴⁴ tsiu ⁴³ 〈□手〉	←	toi ²¹ + tshiu ⁴³	→	t-i ²¹ ~toi ⁴⁴ tsiu ⁴³
b. kai ⁴⁴ sieu ⁴² 〈介绍〉	←	kai ²¹ + sieu ⁴²	→	k-i ²¹ ~kai ⁴⁴ sieu ⁴²
c. ku ⁵¹ io ²¹ 〈过去〉	←	ku ²¹ + khio ²¹	→	k-i ²¹ ~ku ⁵¹ io ²¹

(12)が示すように、第 2 形態素の声調が 43、42 と 21 の場合、重複部の声調は 21 として実現する。重複部の声調 21 は第 1 形態素の声調をそのままコピーして作られたものだと考えられる。

3.3. 部分重複の生産性

部分重複は名詞、形容詞の語形成に関与せず、動詞の語形成のみに観察されることはすでに述べた。しかし、すべての動詞が部分重複することができるわけではない。動詞の中では、意志動詞のみが部分重複することができる。非意志動詞は部分重複することができない。

- (13) se⁴² 〈是〉「である」→*si⁴⁴~se⁴²
 o⁴² 〈有〉「ある、いる」→*i⁴⁴~o⁴²
 tshø²¹ 〈□〉「嫌う」→*tshi⁵¹~tshø²¹
 kian⁵¹ 〈惊〉「恐れる」→*ki⁴⁴~kian⁵¹

¹² (12)に示した動詞は、それぞれ次の意味である。toi⁴⁴tsiu⁴³ 〈□手〉「手伝う」、kai⁴⁴sieu⁴² 〈介绍〉「紹介する」、ku⁵¹io²¹ 〈过去〉「もう一度行く」。

khe²¹ 〈气〉「怒る」→*khi⁵¹~khe²¹
 iɛŋ²¹ 〈厌〉「飽きる」→*i⁵¹~iɛŋ²¹
 tshɛŋ²¹ 〈□〉「冷める」→*tshi⁵¹~tshɛŋ²¹
 iɔŋ⁴⁴ 〈融〉「溶ける」→*i⁴⁴~iɔŋ⁴⁴

意志動詞であれば、部分重複することができる。したがって、福清方言においては、部分重複は語形成の手段として生産性が高いといえる。

4. 部分重複の使用

4節では、部分重複の使用をみる。まず4.1で部分重複を用いた発話例を提示し、使用場面について説明する。次に4.2で部分重複の生起条件について考察する。

4.1. 部分重複の使用場面

部分重複を用いた自然発話データは合計11例あった。この11例は、次のAとBの2つに分けることができる：

- A. 指示型：指示を出す (7例)
- B. 叙述型：行為を述べる (4例)

以下では、A、Bそれぞれについて順に見ていく。

4.1.1. 指示型

Aの指示型には次の4つがある：

- A-1：聞き手が質問したのに対し、話し手が回答する
- A-2：聞き手が議論しているのに対し、話し手が指示する
- A-3：聞き手が躊躇しているのに対し、話し手が提案する
- A-4：聞き手の行動に対し、話し手が異なる提案をする

以下では、それぞれの発話例を提示し、発話場面について若干説明をおこなう。

A-1：聞き手が質問したのに対し、話し手が回答する

(14) 聞き手： tsy⁵¹ liu⁵¹ tœ⁴⁴œ⁴²?
 书 □ □□
 本 投げる どこ
 「本はどこに置く?」

話し手： hi⁵¹~ hieŋ²¹ tsie⁴³ le.
 □ □ 此里
 投げる RDP¹³ 投げる ここ
 「ここに置いて下さい。」

(14)では聞き手が「本はどこに置く?」と質問している。その質問に対して、話し手が行った回答に部分重複が用いられている。動詞 hieŋ²¹「投げる」に対して部分重複が行われている。

(15) 聞き手： ε⁴⁴ eŋ⁵¹ tu⁴⁴uai^{42?}
 鞋 櫻 都位
 靴 置く どこ
 「靴はどこに置く?」

話し手： si⁴⁴~ siu⁴⁴li⁴³ a, i⁴⁴~ eŋ⁵¹ tshia⁵¹ le.
 □ 收□ 啊 □ 櫻 車 里
 RDP 片づける SFP RDP 置く 車 中
 「片づけて車に入れてください。」

(15)では聞き手が話し手に靴を修理に出すように頼んでいる場面で、「靴はどこに置く?」と質問している。その質問に対して、話し手が行った回答に部分重複が二つ用いられている。二音節動詞 siu⁴⁴li⁴³〈收□〉「片づける」と一音節動詞 eŋ⁵¹〈櫻〉「置く」に対して部分重複が行われている。

A-2 : 聞き手が議論しているのに対し、話し手が指示する

(16) 聞き手： ŋ³⁵ŋa⁴² muŋ²¹ me⁴³ seŋ⁴⁴ŋu⁴⁴ yŋ⁵¹. ŋ³⁵ŋa⁴² tsi³⁵a⁵¹
 □□ □ 买 十五 斤 □□ 自家
 1PL とりあえず 買う 十五 500 グラム 1PL 自分
 tshuo⁴⁴le⁴³ ia⁴⁴ lio⁴⁴ sia⁵¹ lo.
 厝底 也 着 食 □
 家 も 必要 食べる SFP
 「私たちはとりあえず 7.5 キロ買おう。自分の家でも食べなければ
 ならないでしょ。」

¹³ 動詞 hieŋ²¹〈□〉「投げる」の部分重複を表す。以下では、動詞の部分重複は RDP のみで記す。本稿の略号は次のとおりである。AGT : 動作主、ASP : アスペクト、BEN : 授与、CL : 類別詞、NEG : 否定、PL : 複数、RDP : 部分重複、SFP : 文末助詞、SG : 単数。

話し手： mɔ⁴⁴ puɑŋ⁵¹ sioʔ⁴⁴ sioŋ⁵¹ sioʔ⁴⁴ sioŋ⁵¹ saŋ⁴⁴seʔ⁴⁴ kyŋ⁵¹.
 无 搬 蜀 箱 蜀 箱 三十 斤
 何なら 運ぶ 一 CL 一 CL 三十 500 グラム
 「何なら一箱(運んで→)買ってこようか。一箱は十五キロだ。」

聞き手： tsie³⁵ se⁴² laʔ sia⁵¹ eʔ⁴⁴ lau⁴³?
 此 □ □ 食 会 了
 こんなに 多い SFP 食べる 可能 終わる
 「こんなに多いの?食べ切れる?」

(16)は卵をどれぐらい買うかについて議論する場面の発話である。話し手はお土産用に卵を買わなければならない。自分でも食べるからということで、(16a)のように発話した。それに対して、聞き手は(16b)のように、自分の家でも食べるのであれば、一箱買うように提案している。その提案に対して、話し手は一箱だと十五キロもあって、食べられるかどうかと心配する。そのあと、話し手の心配に対して、十五キロの卵ぐらいいは食べられる、問題がないなどと、聞き手を含む人たちが口々に意見を交わした。その直後に話し手が次の発話を行った。

(17) pi⁴⁴~ puɑŋ⁵¹ sioʔ⁴⁴ sioŋ⁵¹ tuŋ⁴³ le.
 □ 搬 蜀 箱 转 来
 RDP 運ぶ 一つ CL 帰る 来る
 一箱(運んで→)買ってきてください。

(17)は、話し手が聞き手を含む人たちが議論した後に、行われた発話である。その発話において、動詞 puɑŋ⁵¹ 〈搬〉「運ぶ」に対して部分重複が行われている。

A-3 : 聞き手が躊躇しているのに対し、話し手が提案する

(18) uaŋ⁵¹ o⁴² li te⁴³, i⁴⁴~ uaŋ⁵¹ te⁴³ o.
 弯 有□ 底 □ 弯 底 去
 曲がる 可能 入る RDP 曲がる 入る ASP
 「曲がって入ることができるから、曲がって入ってください。」

(18)は聞き手が話し手を車に乗せて、家まで送る場面である。話し手の家の近くまで到着した。家の近くまでに入る通路があるが、しかしその通路が狭くて、運転手(=聞き手)は車が通れるかどうかと心配する。周りを見回してどこか車を止める場所を探している際に、(18)の発話が行われた。その発話において、動詞 uaŋ⁵¹ 〈弯〉「曲がる」に対して部分重複が行われている。

A-4: 聞き手の行動に対し、話し手が異なる提案をする

(19) 聞き手: tɔ⁴⁴ tuŋ⁴³ thai⁴⁴ lyʔ²¹ kian⁴³ sia⁵¹.
 驮 转 □ 汝 团 食
 取る 帰る 殺す 2SG 子ども 食べる
 「持って帰って、殺して子供に食べさせてください。」

話し手: puŋ⁴⁴ tɔ⁴⁴ io mi⁴⁴~ me⁴² a.
 □ 驮 去 □ 卖 啊
 NEG 取る 行く RDP 売る SFP
 「なぜ売りに出さないの?(→売ればいいのか)」

(19)においては、聞き手が捕まえた鳥を話し手に渡して、「持って帰って、殺して子供に食べさせてください」と言っている。それに対して、話し手は「なぜ売りに持っていないの?」「売ればいいのか」と異なる提案をしている。その発話において部分重複が行われている¹⁴。動詞 me⁴² 〈卖〉「売る」に対して部分重複が行われている。さらに、この直後に同じ内容の提案をする発話(20)が行われて、その発話にも部分重複が行われている。

(20) tɔ⁴⁴ hai²¹iau⁴³ mi⁴⁴~ me⁴² a.
 驮 海口 □ 卖 啊
 取る 地名 RDP 売る SFP
 「海口へ持って行って売って下さい。」

4.1.2. 叙述型

Bの叙述型には次の3つがある。

- B-1: 話し手が過去の行為を述べる
- B-2: 話し手がこれからの行為を述べる
- B-3: 話し手が考えを述べる

以下、それぞれの発話例を提示し、発話場面について若干説明をおこなう。

¹⁴ (19b)は反語疑問である。疑問文では部分重複の使用が許容されない。

B-1 : 話し手が過去の行為を述べる

- (21) tuŋ⁴³ le khyʔ²¹ ŋuaʔ²¹ phi⁵¹~ pha²¹ a.
 转 来 乞 我 □ 拍 啊
 帰る 来る AGT 1SG RDP 殴る SFP
 「帰ってきて私に殴られた。」

(21)は、話し手が「子供が帰ってきたとき、その子供を殴った」と、過去の自身の動作・行為について述べている。その理由は、子供が幼稚園へ行く時に、一緒について来てほしいと言ったり、教室に一緒についてほしいと言ったり、何回も同じようなわがままを言っていたからである。(21)の発話において、動詞 pha²¹ 〈拍〉「殴る」に対して部分重複を行っている。

B-2 : 話し手がこれからの行為を述べる

- (22) hy³⁵meŋ²¹ tsai²¹ i³⁵ tso²¹, ŋ²¹ tso²¹, tso²¹ tsie⁴³ toŋ²¹loŋ²¹tsiaŋ⁵¹tsiaŋ²¹
 许面 □ 伊 做 佷 做 做 此 堂堂正正
 あちら 放任 3SG 作る NEG 作る 作る ここ ど真ん中
 le. maŋ⁴⁴tso⁴⁴ keʔ²¹ thi⁵¹~ thia²¹ li⁵¹.
 □ 明早 共伊¹⁵ □ 拆 □¹⁶
 ASP 今度 BEN-3SG RDP 解体する 要らない
 「あちらには作らせてもいいのだが、作らない。ここのだ真ん中に作って。
 今度(燕の巣を)壊しててやろう。」

(22)は燕の巣についての発話である。燕が糞をするから大変だなどの会話の後に、(22)の発話が行われた。掃除しやすいところに巣を作ったのならまだいいが、ど真ん中に巣を作るのだったら「今度壊してやろう」とこれからの自身が取ろうとする行動について述べている。動詞 thia²¹ 〈拆〉「解体する」に対して部分重複を行っている。

B-3 : 話し手が考えを述べる

- (23) khi²¹~ khi⁴³ paŋ⁴⁴paŋ⁴⁴tiʔ⁴⁴tiʔ⁴⁴ tsiaŋ⁵¹ tsoŋ²¹.
 □ 起 平平直直 正 俊
 RDP 建てる シンプル 却って きれい
 「シンプルに建てたほうが逆にきれいだよ。」

¹⁵ koŋ⁴² 〈共〉と i⁵¹ 〈伊〉の合音である。

¹⁶ 「要らない」を意味する。否定辞と ti⁵¹ 「要る」との合音の可能性はある。

(23)は、話し手がある家を見たときになされた発話である。家を建てる際、「シンプルに建てたほうが逆にきれいだ」と自身の考えを述べている。その発話に動詞 khi⁴³〈起〉「建てる」に対して部分重複を行っている。

(24) i⁴⁴~ ej⁵¹ thəŋ²¹thoŋ⁴³. tsuŋ²¹ŋuaŋ²¹li²⁴ puŋ⁴⁴le⁴² ia⁴⁴ mɛ⁴⁴ ŋai⁴⁴.
 □ 櫻 桶桶 □□日 不是 也 □ 坏
 RDP 置く バケツ こんな日 NEG も NEG 腐る
 「バケツに入れればいい。こんな日は腐らないだろう」

(24)は、卵を買って帰ってきた時の発話である。話し手はその時期の気温から判断して、特別に保管する必要がなく、「バケツに入れればいい」と自身の考えを述べている。その発話に動詞 ej⁵¹〈櫻〉「入れる」に対して部分重複を行っている。

4.2. 部分重複の生起条件

4.1 節では、部分重複を用いた発話例を提示しながら、発話場面について確認した。4.2 節では問題の所在を指摘し、部分重複の生起条件について考察する。

4.2.1. 問題の所在

自然発話データでは、部分重複を用いた場面で、部分重複を用いない発話例も見つかっている。以下の(25)の発話である。

(25) ki²⁴si²⁴ ∅ khi⁴³ paŋ⁴⁴paŋ⁴⁴ti²⁴ti²⁴ ki tshuo²¹ tsiaŋ⁵¹ tsoŋ²¹.
 其实 起 平平直直 其 厝 正 俊
 実は 建てる シンプル の 家 却って きれい
 「本当のところは、シンプルな家を建てた方が逆にきれいだよ。」

(25)は(23)の発話の直前に行われた発話である。(23)では動詞 khi⁴³〈起〉「建てる」に対して部分重複の形式を用いている。一方、(25)では単純形式を用いている。(25)は(23)に比べて副詞 ki²⁴si²⁴〈其实〉「本当のところ」を用いている。また(23)では、形容詞 paŋ⁴⁴paŋ⁴⁴ti²⁴ti²⁴〈平平直直〉を用いているが、(25)では名詞句 paŋ⁴⁴paŋ⁴⁴ti²⁴ti²⁴ki tshuo²¹〈平平直直其厝〉を用いている。しかし副詞の使用などによって、単純形式が選ばれたわけではない。(23)は部分重複の形式を取り除いても文が成立する。

(23)と(25)の例から、動詞の部分重複の有無にかかわらず、文の命題的意味が変わらないことが分かる。部分重複を用いても、命題の内容に特に影響がないようである。

実際、インフォーマントに部分重複の有無と文の成立および意味の関係について確認したところ、(23)だけではなく、4.1 節で提示した部分重複を用いたすべての発話例も、部分重複を取り除いても発話が成立し、かつ文の意味に影響がないことが分かった。

以下に、部分重複を取り除いた作例をいくつか挙げておく。例えば、話し手が聞き手の質問に答えた(15)の場面では、以下の(26)のように裸動詞 $siu^{44}li^{43}$ 〈收口〉「片づける」、 ej^{51} 〈摺〉「置く」だけで、単純形式を用いても発話は成立する。

- (26) \emptyset $siu^{44}li^{43}$ a, \emptyset ej^{51} tshia⁵¹ le. (作例)
 收口 啊 摺 车 里
 片づける SFP 置く 車 中
 「片づけて車に入れてください。」

(17)の発話場面でも、以下の(27)のように動詞 $puanj^{51}$ 〈搬〉「運ぶ」のみで表現することが可能である。

- (27) \emptyset $puanj^{51}$ sio^{44} $sioj^{51}$ tuj^{43} le. (作例)
 搬 蜀 箱 转 来
 運ぶ 一つ CL 帰る 来る
 「一箱(運んで→)買ってきてください。」

躊躇している聞き手に対して提案する(18)の発話の場面でも、以下の(28)のような部分重複の形式を用いない発話も可能である。

- (28) $uanj^{51}$ o^{42} li te^{43} , \emptyset $uanj^{51}$ te^{43} o. (作例)
 弯 有口 底 弯 底 去
 曲がる 可能 入る 曲がる 入る ASP
 「曲がって入ることができるから、曲がって入ってください。」

聞き手の行動に対して異なる提案をする状況でも同様である。(19)および(20)は以下の(29)(30)のように、単純形式で表現しても可能である。

- (29) puj^{44} to^{44} io \emptyset me^{42} a? (作例)
 □ 驮 去 卖 啊
 NEG 取る 行く 売る SFP
 「なぜ売りに持って行かないの?」

- (30) to^{44} $hai^{21}iau^{43}$ \emptyset me^{42} a. (作例)
 驮 海口 卖 啊
 取る 地名 売る SFP
 「海口へ持って行って売って下さい。」

話し手が自身の行動・行為、考えを述べる状況でも同様である。

以上のように、話し手が聞き手に対して指示や提案をする状況、または自身のことを述べる状況における発話は、部分重複を用いることがある。しかし、それは必ずしも必須な要素ではなく、なくても発話は成立し、自然である。さらに、部分重複が使用されない発話でも同様な意味を表すことが分かる。

では、話し手が聞き手に対して指示や提案をする状況、または自身のことを述べる状況における発話においては、常に部分重複の形式を用いられるのか。実際のところではそういうわけではない。

例えば、話し手が聞き手に対して、手荷物を「持ってください」と指示する状況では、以下の(31)の発話が自然であるが、(32)のように部分重複を用いた発話は成立しない。

- (31) tsieʔ⁴⁴ ɲuaʔ²¹ ∅ lieŋ⁵¹ ɲa. (作例)
 此 我 □ 啊
 これ 1SG 持つ SFP
 「これ、私のために持ってください。」

- (32) *tsieʔ⁴⁴ ɲuaʔ²¹ li⁴⁴~ lieŋ⁵¹ ɲa. (作例)
 此 我 □ □ 啊
 これ 1SG RDP 持つ SFP
 「これ、私のために持ってください。」

また、話し手が自身の行動・行為を述べる場合、例えば「私は明日学校へ行く」ことを述べる場合は、以下の(33)の表現になる。(34)のように部分重複の形式を用いた場合、許容されない表現となってしまう。

- (33) ɲuaʔ²¹ miŋ²¹lan²¹liʔ⁴⁴ ∅ khioʔ⁴⁴ hoʔ⁴⁴toŋ⁴⁴. (作例)
 我 明旦日 去 学堂
 1SG 明日 行く 学校
 「私は明日学校へ行く。」

- (34) *ɲuaʔ²¹ miŋ²¹lan²¹liʔ⁴⁴ khi⁵¹~ khioʔ⁴⁴ hoʔ⁴⁴toŋ⁴⁴. (作例)
 我 明旦日 □ 去 学堂
 1SG 明日 RDP 行く 学校
 「私は明日学校へ行く。」

以上のように、話し手が聞き手に対して指示や提案をする状況、または自身のことを述べ

る状況においては、常に部分重複の形式を用いた発話ができるわけではない。では、部分重複の生起条件はどのようなものだろうか。次節では、部分重複の生起条件について考察する。

4.2.2. 生起条件

部分重複の生起条件は、「複数の選択肢」の存在である。「複数の選択肢」とは、指示や提案をする際の指示内容や提案内容が複数存在することである。または自身のことを述べる場合では、行動の方法や考えが複数存在することである。

以下では具体例を用いて確認してみよう。

- (14) 聞き手: tsy⁵¹ liu⁵¹ tœ⁴⁴œ⁴²?
 书 □ □□
 本 投げる どこ
 「本はどこに置く?」
- 話し手: hi⁵¹~ hien²¹ tsie⁴³ le.
 □ □ 此里
 RDP 投げる ここ
 「ここに置いて下さい。」

(14)を例に説明すれば、聞き手の「本はどこに置く?」という質問に対して、話し手は「ここに置いて下さい」と指示をしたが、その指示以外にも、例えば、「あそこに置いて下さい」「そのまま持ってください」など、複数の指示の選択肢が存在している。

卵を買う(17)の状況では、「ひと箱買ってきてください」と指示しているが、その指示内容のほかに「二箱買ってきてください」など数量に関して多くの選択肢が存在している。

(18)の状況では、提案内容が複数存在するということである。例えば、「曲がって入ってください」という提案のほかに、「そこに止めてください」など複数の提案内容が存在する。

(19)では話し手は聞き手の行動に対して、異なる提案をしているが、その提案内容のほかに、例えば、「売りに出す」「自分で食べる」「人にあげる」など複数の提案内容が存在する。

自身のことを述べる状況でも同じである。例えば、(21)では「子供を殴る」という行動を取ったが、それ以外にも、例えばことばで教え諭すなどの方法が存在する。(22)の状況でも、「鳥の巣を壊す」という行動のほかに、場所を移す方法や巣の下に新聞紙を敷いて床を汚さないようにするなどの方法も存在する。

最後に自身の考えを述べる状況に関して、(23)では、家のデザインにはシンプルなものから豪華なものまで様々なものが存在する。(24)では卵の保管方法や保管場所も複数存在するのである。

以上のように、部分重複を用いるには、「複数の選択肢」の存在が必要である。このような「複数の選択肢」が存在する状況で、初めて部分重複を用いることができる。

このような状況では、単純形式を用いることも可能である。しかし、部分重複を用いると、

発話内容以外にも他の選択肢が存在することを暗示することができる。他の選択肢の存在を暗示することによって、いくつかの語用論的效果をもたらすことができる。

例えば、聞き手の質問に答えたり、または何か提案をおこなう際には、単純形式を用いた場合は、「何々をしてください」という答えや提案しか提示されない。一方、部分重複の形式を用いることによって、指示内容や提案内容のほかに、他の指示内容や提案内容が「多数」存在することをほのめかすことができる。発話した指示内容や提案内容は、たくさん存在する複数の指示や提案の中の一つに過ぎないことが示せる。そこから「とりあえず何々をして下さい」という含みを持たせることができる。部分重複を用いることによって、他の答えや提案の存在をほのめかし、単純形式よりも、聞き手の負担を減らすことができ、聞き手にその行動を取りやすくさせる効果が期待される。

聞き手の行動に対して、異なった提案をする場合でも、単純形式を用いた場合は、違う行動をとるように、という直接的な指示となり、聞き手に自分の考えが否定されたと誤解させてしまいかねない。一方、部分重複の形式を用いた場合は、提案の内容以外にも他の方法の存在をほのめかし、話し手が提案した方法のほうがより望ましいと主張しつつも、聞き手がとった選択肢も保留し、完全に否定せずにする。

自身のことを述べる場合にも、部分重複の形式を用いることによって、その効果は発揮される。自身の行為・行動、考えを単純形式で表わすのに比べ、ほかの行動の方法や考えが存在することをほのめかすことができる。その結果、自身がとった行動・行為は、「とりあえず」のものであり、唯一の最終判断ではないことが示せるし、また、「いっそのこと」おこなったものであって、必ずしも最善の選択ではない、ということも示せる。

5. おわりに

おわりに、本稿でおこなったことを要約し、今後の課題について述べる。

まず本稿では以下のことをおこなった。

- (1) 部分重複の形態音韻論的分析を行った。重複部の分節音と重複部の声調の実現について詳しく分析した。
- (2) 自然会話データを提示し、部分重複の使用場面を考察した。部分重複の生起条件を明らかにした。

つぎに今後の課題について述べる。課題は3つある。

課題(一)：文のタイプが限られている。

課題(二)：動作主の人称が限られており、三人称の場合は考察できていない。

課題(三)：部分重複にはほかの形式も存在するのに、限られた形式しか考察していない。

課題(一)のデータの制約に関しては、実際の発話データを用いたため、聞き手に対する指

示や提案、または話し手が自身のことを述べる表現に限定される。疑問文や否定文においての使用が可能かどうか、今後さらに調査する必要がある。

課題(二)は、動作主が三人称の場合、部分重複の使用が可能かどうか?である。動作主が三人称の場合に、重複形式が用いられている例はなかった。しかし、インフォーマントからは、動作主が三人称の場合でも、部分重複の使用は可能だという報告が得られている。具体的には以下の例文である。

- (35) i⁵¹ si⁴⁴~ sia^{ʔ44} mue⁴⁴.
 伊 □ 食 糜
 3SG RDP 食べる お粥
 「彼はお粥を食べる。」

- (36) tshiu²¹ki⁵¹ khy^{ʔ21} i^{ʔ21} tsi⁵¹~ tso²¹ ɲai⁴⁴ o.
 手机 乞 伊 □ 做 坏 去
 携帯 AGT 3SG RDP する 壊れる
 「携帯は彼に壊された。」

(35)では、主語が三人称となっており、インフォーマントによれば、「彼はお粥を食べる」という意味である。しかし、筆者の内省では、(35)は「彼はお粥を食べる」という意味ではなく、話し手が聞き手に対して、「彼にお粥を食べさせてください(ほかのものではなく、お粥でいいよ)」という指示のように感じられる。また(36)の表現でも、筆者の内省では、部分重複の使用は許容されにくい。

したがって、動作主が三人称の場合における部分重複の使用は、母語話者の間でも判断が異なっており、今後引き続き調査することが必要である。さらに今回は「融城」グループに属する海口鎮のデータを用いたが、今後は調査範囲を広げて、他の方言グループ「高山」、「江陰」、「一都」などの地域における部分重複表現の使用状況を調査し、内部差異があるかどうかについて考察する必要がある。

課題(三)は、部分重複にはほかの形式も存在するのに、限られた形式しか考察していないというものである。部分重複には、(37)に示す派生形式が存在する。動詞 pha²¹〈拍〉「殴る」を例に提示すると、以下のような形式が存在する¹⁷。

- (37) a. ph-i⁵¹~pha²¹
 b. ph-i²¹~pha⁵¹pha²¹
 c. ph-i²¹-lu^{ʔ44}~pha²¹
 d. ph-i⁵¹~pha²¹-ph-i²¹-lu^{ʔ44}~pha²¹

¹⁷ 福州方言と古田方言にも同様な派生形式が存在する。

部分重複の(37a)の形式のほか、(37b)～(37d)の形式も存在する。(37b)の形式は語基 pha^{21} 〈拍〉を全体重複して、部分重複させている。(37c)は重複部 phi^{21} と語基 pha^{21} 〈拍〉との間に $lu?$ が挿入された形式である。(37d)は(37a)の形式と(37c)の形式を組み合わせた形式である。

これらの派生形式についても、今後フィールドワーク調査によって、言語データを収集し、記述していきたいと考えている。

参考文献

- 斎藤純男・田口善久・西村義樹[編](2015)『明解言語学辞典』東京：三省堂
陳学雄(2018)「漢語福清方言の記述言語学的研究」神戸市外国語大学博士論文
陈泽平(1998)《福州方言研究》福州：福建人民出版社
陈泽平(2015)《福州方言的结构与演变》北京：人民出版社
冯爱珍(1993)《福清方言研究》北京：社会科学文献出版社
付欣晴(2016)《汉语方言重叠式比较研究》北京：社会科学文献出版社
黄伯荣[主编](1996)《汉语方言语法类编》青岛：青岛出版社
李滨(2014)《闽东古田方言研究》厦门：厦门大学出版社
李如龙(1984)《闽方言与苗、壮、傣、藏诸语言的动词特式重叠》《民族语文》第1期：17-25
林寒生(2002)《闽东方言词汇语法研究》昆明：云南大学出版社

受理日 2021 年 4 月 13 日